

2 小学校における一声事例

生活安全

	必ず指導する基本的事項	一声事例
I-1 登下校時の安全	① 友達と一緒に登下校すること。	「家の近くの友達と一緒に登下校しましょう。」 「高学年は、下級生の様子を気にしながら、登下校しましょう。」
	② 防犯ブザーを鳴らし、点検すること。	「いざというときに鳴りますか。出かける前に確かめましょう。」 「危険を感じたときに、防犯ブザーを鳴らしましょう。」
	③ 登下校時、どこがどのようなときに危険か確認すること。	「通学路で、危険な場所があるか、おうちの人と確認しておきましょう。」
	④ 電車やバスに乗るときは、痴漢・すり等に注意すること。	「車内に不審な人がいたら、その場から離れましょう。」
I-1-2 校内での安全	① 自分の身の回りを整えること。	「机の横には荷物は1個。人がスムーズに通れるようにしましょう。」 「自分のものでなくても落ちているものは拾いましょう。」
	② 活動するときや遊ぶときのきまりや約束を守ること。	「きまりを守ることは、自分や友達の安全を守ることです。」 「遊ぶときは、その場所でのきまりを守って遊びます。なぜでしょうか。」
	③ 道具や遊具などを大切にし、正しい使い方をすること。	「道具の使い方や運び方をきちんと覚えましょう。」 「使った道具は、決められた場所に整頓して片付けましょう。」
	④ 廊下や階段の歩き方、運動場やプールでの運動の仕方など施設の安全な使い方について確認すること。	「廊下は、右側を歩きましょう。」 「出入口から人が飛び出してくることがあるから、気を付けましょう。」
	⑤ 学校が定めた「不審者侵入時の緊急放送」を知ること。	「『〇〇〇〇』の放送が流れたら、不審者が学校に入ってきた合図です。近くの大人がいる教室に入り、バリケードを作りましょう。」
	⑥ 不審者侵入時にとるべき行動を確認すること。	「放送が鳴ったら、『ピタッ』と話と動きを止めましょう。」
	⑦ 防犯教室の目的を確認し、主体的に参加すること。	「自分や友達を守るために、めあてをもって参加しましょう。」
I-1-3 家庭生活での安全	① 家に帰って玄関を開ける前に注意することについて確認すること。	「誰もいない家に帰っても、『ただいま』と大きな声で言いましょう。」 「家に入る前は、振り返って、後ろを確認しましょう。」
	② 留守番をするときの約束を確認すること。	「相手をよく確かめてから、ドアを開けましょう。」 「留守番の時の約束をおうちの人と決めておきましょう。」
	③ エレベーターに乗る前と乗るとき「は・さ・み」の約束を確認すること。	「エレベーターに乗る時の『は・さ・み』の約束を覚えましょう。」 「乗ったときには、どんなことに気を付けるとよいでしょうか。」
	④ 非常階段や屋上など、人目につきにくい場所の危険について知ること。	「非常階段や屋上に一人で行っていませんか。人目につきにくい所には、どんな危険があるでしょうか。」
	⑤ 友達の名前や電話番号などを知らない人から聞かれても応じず、すぐに学校へ連絡すること。	「名前や電話番号を聞き出す電話がかかってきたら、『分かりません。』と言って、すぐに電話を切りましょう。」
I-1-4 地域や社会生活での安全	① 一人で行ってはいけない場所を確認すること。	「繁華街など一人では行ってはいけない場所を家族と話しましょう。」 「一人で行ってはいけない場所は、どんなところですか。」
	② 人通りの少ない道や街路灯の少ない場所など「入りやすく、見えにくい」場所を確認すること。	「地域安全マップを見て、危険な場所を確認しましょう。」 「犯罪が起こりやすい場所のキーワードは何でしたか。」
	③ 「 いかにおすし 」の約束を確認すること。	「危険を感じたら、すぐに助けを呼びましょう。」 「知らない大人に誘われたら、その場から離れましょう。」
	④ 「子供110番の家」の場所を確認すること。	「通学路にある『子供110番の家』を覚えましょう。」
	⑤ 夜間の外出で注意することを確認すること。	「暗くなると危険がいっぱい。夕焼けチャイムで帰りましょう。」
	⑥ 事件や事故に遭ったら必ず保護者、警察、学校に連絡すること。	「何かあったら、すぐに学校に連絡してください。」 「事件、事故を見かけたら、おうちの人に必ず連絡しましょう。警察（110番）への連絡も忘れないようにしましょう。」
	⑦ 地域の犯罪防止活動を知り、自分にできることを考え、実行すること。	「地域で、見回りをしてくださっている方が身近にいますか。」 「なぜ、地域の防犯活動が必要なのでしょう。」
	⑧ 山や海・川に行くときに注意することを確認すること。	「山や海・川に行くときは、保護者や登山・水泳等の熟練者と一緒に行きましょう。」
I-1-5 スマートフォン・携帯電話等の使用時の安全	① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めること。	「スマートフォン・携帯電話の使用ルールをお家の人と決めましょう。」 「スマートフォン・携帯電話を触っている時間は、日々どれぐらいあるのか考えましょう。」
	② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定すること。	「スマートフォン・携帯電話にフィルタリングがされているか、お家の人に確認してもらいましょう。」
	③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返すこと。	「画面の向こうには人がいます。スマートフォン・携帯電話を使う時のルールを保護者と確認しましょう。」
	④ 個人情報や教えたり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしないこと。	「面識の無い相手には、簡単に個人情報を教えないようにしましょう。」 「送った画像は第三者が自由に使用してしまう危険性があります。」
	⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり拡散させたりしないこと。	「写真・動画を勝手に撮影したり、勝手にいろいろな人に送ったりしてはいけません。」
	⑥ ながらスマホ・携帯電話の使用は危険なのでやめること。	「事故のもと、スマートフォン・携帯電話のながら歩きはやめましょう。」 「しっかり前を見て、周りの危険に注意しながら歩きましょう。」

交通安全

		必ず指導する基本的事項	一声事例
Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用	①	道路における交通法規と安全な歩行の仕方を確認すること。	「ガードレールや白い線の中を歩きましょう。」 「横断歩道を渡ります。手前で必ず止まって左右を確認しましょう。」 「信号のない横断歩道を渡る時は、手を挙げて横断することを自動車の運転手にアピールし、自分に気付き停止した自動車の運転手に会釈をして意思疎通してから渡りましょう。」
	②	通学路の交通事情や通学方法に応じた安全な通学の仕方を確認すること。	「いつもは車が来ない道も、『今日は来る』と思って歩きましょう。」 「広がって歩かないようにしましょう。」
	③	交差点を横断する際の危険について知り、安全な歩行の仕方を確認すること。	「一度止まって、『右、左、右』を見て、自動車がいない、止まったことを確認してから渡りましょう。」 「黄信号は、もうすぐ赤信号の合図です。これからの横断はやめましょう。」 「交差点では右折・左折してくる自動車があります。横断中も車両の動きに十分注意して渡りましょう。」
	④	青信号で横断歩道を渡る際は、すぐに渡らず左右の安全を確認すること。	「歩行者用信号が青になっても、左右、前方、後方を確認し、自動車が信号に従い、止まっていることを確認してから渡りましょう。」
	⑤	雨や雪の日の安全な歩行の仕方を確認すること。	「傘は振り回さず、人に当たらないように気を付けて持ちましょう。」 「雪や雨の日には、特に何に気を付けたいですか。」
	⑥	明るい色の服装や反射材の効果を知ること。	「日が暮れてからは、明るい色の服や反射材の付いている靴などを意識して身に付けましょう。」
	⑦	安全な集団歩行の仕方を確認すること。	「集団では、なぜ列をつくって歩行するのか、理由を考えてみましょう。」 「みんなで道を歩くときは、どんなことに気を付けますか。」
	⑧	踏切事故の原因と非常ボタンの取扱いについて知ること。	「警報が鳴ったら、踏切を通りません。」 「踏切内で動けない人がいたら、迷わず非常ボタンを押しましょう。」
	⑨	幼児や高齢者、障害のある人に対して、どのような配慮が必要か考えること。	「他の人の危険に気が付いたら、声を掛けましょう。」
	⑩	公共交通機関利用時に想定される危険について考えること。	「降りる人が降りてから、順番に乗りましょう。」 「座ったときは、膝をとじて、椅子に深く座りましょう。」
Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備	①	自転車の安全な利用の仕方を確認すること。	「交差点では、止まって右左、後ろも忘れずに確認しましょう。」 「自転車で歩道を渡るとき、気を付けることは何ですか。」
	②	雨天時や夜間の安全な走行の仕方を確認すること。	「暗くなったら、電灯をつけて走りましょう。」 「反射材とは何か、知っていますか。」
	③	自転車に関する基本的な交通法規を知り、必ず守ること。	「自転車は、車と同じです。ルールを守らなければなりません。」 「この道だと、小学生のみんなはどことを走ればよいでしょうか。」
	④	自転車の点検と整備をすること。	「点検した自転車で安全に乗りましょう。」 「自転車を点検するところ、『ぶたはしゃべる』を思い出しましょう。」
	⑤	加害事故の責任と補償制度を知ること。	「自転車で乗っていても、加害者になることがあります。」 「自分が人を交通事故に遭わせてしまうことを考えたことがありますか。」
	⑥	自転車乗用時のヘルメットの必要性について考えること。	「自転車で乗るときにヘルメットをしていないと、どんな危険があるでしょうか。」
Ⅱ-3 特性と心得 二輪車・自動車の	①	車両事故の特徴を知り、安全な歩行や走行の仕方を確認すること。	「スピードが出る乗り物に乗るということは、安全確認する時間がそれだけ短くなるということです。」 「車の運転席からは、子供は見えないことがあります。」
	②	ヘルメットやシートベルトの効果を知ること。	「自転車で乗るときはヘルメットをかぶりましょう。」 「車に乗るときは、シートベルトをしめる理由を考えましょう。」
	③	自動車の種類による死角と内輪差や、晴れの日と雨や雪の日の自動車の停止距離の違いなどを知ること。	「この車がぶつからずに曲がったから、他の車も大丈夫とは限りません。それはどうしてでしょう。」
Ⅱ-4 交通事故防止と安全な生活	①	地域の交通安全活動を知り、参加すること。	「自転車講習会など、身近な地域で行われている交通安全について調べてみましょう。」
	②	交通事故が起こったときの通報や対応の仕方を知ること。	「目の前で交通事故が起こりました。何をしたらよいですか。」 「交通事故が起こったときの通報は、110番ですか、119番ですか。」
	③	応急手当の仕方を確認すること。	「けがの手当の仕方を身に付けましょう。」
	④	自分たちにできる交通安全活動を考え実行すること。	「交通事故から自分の命を守るために、どんなことに気を付けますか。」 「私たちの町の交通安全のために、どんなことができるでしょう。」

	必ず指導する基本的事項	一声事例
Ⅲ-1 火災時の安全	① 「 おかしも 」の約束や避難経路、避難場所を確認すること。	「慌てず速やかに避難するために、『おかしも』の約束を守りましょう。」 「〇〇で火事が起こった場合は、どのように避難しますか。」
	② 火災の原因と危険について知ること。	「どうして火事になってしまうのでしょうか。」 「火事の恐ろしいところはどんなところでしょう。」
	③ 火災に対する心構えと安全な行動の仕方を確認すること。	「火事が起きたら、まずハンカチや袖で、鼻と口を押えます。」 「落ち着いて行動することが安全な避難につながります。」
	④ 初期消火の方法を確認すること。	「火事を見かけたら、近くの人に知らせましょう。」
Ⅲ-2 地震災害時の安全	① 緊急地震速報の利用の心得を確認すること。	「自分が生活する場所で、物が『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない』場所はどこか、探しておきましょう。」
	② 地震発生時の危険について知り、対処の仕方を確認すること。	「危険な物から離れて、しゃがみましょう。」 「外で地震が起こった場合、どのように身を守りますか。」
	③ 集団で避難するときの「 おかしも 」の約束を確認すること。	「『おかしも』の約束を言ってみましょう。」
	④ 避難経路、避難場所を確認すること。	「被害の状況を確認しながら、より安全な避難経路を通りましょう。」
	⑤ 家庭での地震の備えについて考えること。	「いざというときの非常持ち出し袋リストを作りましょう。」
Ⅲ-3 時の火山災害	① 安全な避難場所と避難の仕方を確認すること。	「移動教室や家族旅行の時に火山が噴火したら、どこへ避難すればよいでしょう。避難の仕方でも火災や地震と同じところはどこでしょう。」
	② 火山活動による危険を知ること。	「家族で登る山は、噴火する山ですか。調べてみましょう。」
Ⅲ-4 気象災害時の安全	① 風水害のときの危険を知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「これから雨や風が強くなりそうなときは、外に出ません。」
	② 落雷に遭わない安全な行動の仕方を確認すること。	「雷鳴が聞こえてきました。どこへ避難すればよいのでしょうか。」
	③ 竜巻発生時の危険について知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「竜巻の発生に気付いたら、近くの頑丈な建物に避難しましょう。」
	④ 降雪時の安全な登下校の仕方を確認すること。	「早めに家を出て、ゆっくり歩きましょう。」 「雪道では、どのようなことに気を付けて歩けばよいのでしょうか。」
	⑤ 落雪が起る仕組みや雪害の影響について知ること。	「雪が積もった後、急に天気が良くなると、屋根の雪が落ちてくることがあります。」
	⑥ 特別警報等、気象災害に関する情報について知り、活用すること。	「台風が近づいています。明日の朝まで、テレビの天気予報を注意して見ましょう。」
Ⅲ-5 時の原子力災害	① 原子力災害による放射線放出と安全対策について知ること。	「風評被害って何でしょうか。どうすれば防げるのでしょうか。」
	② 放射線の身体への影響について知ること。	
Ⅲ-6 避難所の役割と貢献	① 避難所の役割を知ること。	「学校が避難所になった場合について考えてみましょう。」
	② 避難所の生活を知り、自分たちにできることを考えること。	「周りで困っている人の手助けをしましょう。」 「避難所に行ったとき、小学生でもできることはないのでしょうか。」
	③ 災害ボランティア活動に積極的に参加すること。	「困っている人を助けましょう。」
	④ 避難所となる学校や公的機関は、どのような備えがあるのかを知ること。	「防災備蓄倉庫の備蓄品について知りましょう。」
Ⅲ-7 災害の備えと安全な生活	① 地域の避難訓練・防災訓練に積極的に参加すること。	「防災頭巾（ヘルメット）を、自分で素早くかぶれるように練習しましょう。」 「避難訓練は、命を守る訓練です。」
	② 家庭での連絡方法を家族と相談し、決めること。	「災害で家族と離れてしまうことがあります。どうしたらよいか、家族会議で確認しましょう。」
	③ 家庭での災害に対する備えに積極的に関わること。	「家庭にある避難袋を確認しましょう。」 「災害に備えて、家の人と一緒にできることは何でしょうか。」
	④ 応急手当の仕方を確認すること。	「身近にある物でできるけがの手当や止血法を考えてみましょう。」 「自分が一人にいるときに、けがをしてしまいました。どうしますか。」
	⑤ 消防・警察・自治体等の公助の役割を理解すること。	「消防や警察には、どんな役割があるのか、調べてみましょう。」
	⑥ 消防団や自主防災組織の役割について知ること。	「消防団は、どのような人たちが集まって何をしているのでしょうか。」

学校の実態に応じた、オリジナル「一声指導」を考えよう

「危険を予測し回避する能力」と、「他者や社会の安全に貢献できる資質や能力」を育てるために、子供たちにどのような一声を掛けますか。

安全に関する知識を習得させる一声や、危険を予測し、判断する力を育てる一声、日々の生活において安全に生活しようとする意識を高める一声など、学校の子供たちのことを思い浮かべながら、一声指導を考えてみましょう。

一声事例	
生活安全	
交通安全	
災害安全	

※一声事例の内容を、A4判一枚にまとめた指導資料が東京都教育委員会ホームページに掲載してあります。週ごとの指導計画（週案簿）等に貼るなどして活用することができます。